

氏 名	薛 明潔
学 位	博士
専門分野の名称	経済学
学位授与番号	博甲第3222号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	文化科学研究科産業社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	郷鎮企業の改革に見る中国農村工業の新段階 －蘇南モデルの民営化を中心に
学位論文審査委員	主査・教授 松本 俊郎 教授 黒川 勝利 教授 下野 克己 教授 平野 正樹 教授 滕 鑑

### 学位論文内容の要旨

本論文は、1980年代から21世紀初頭にかけての中国農村工業化の特徴を論じたものである。具体的には温州モデル、珠江モデルとともに中国郷鎮企業の三大モデルの一つとして賞賛されてきた蘇南モデルを中心にその歴史的変遷を分析する。論文は序章、終章を含む全7章の構成で、A4版ワープロ打ち126ページからなる。薛明潔氏は文化科学研究科博士後期課程に在学する3年間に2回の学会報告を行い、4本の研究論文を発表した。本論文はこれらの報告原稿と発表論文に手を加え、全体を統一して提出された。

郷鎮企業（郷営・村営の集団所有制企業）とは、一般に社隊企業（人民公社と生産大隊の資金と労働を基礎とした集団所有制企業）が、1984年に中国国務院農牧漁業部によって郷鎮企業と名称変更されたものを指す。中国郷鎮企業の生産額は、2000年には中国農村生産額の三分の二近く、国内総生産（GDP）の三分の一、工業生産額の半ば、輸出額の五分の二近くを占めるにいたった。このため郷鎮企業は中国における農村工業化の典型的な成功例として注目されてきた。

序章では先行研究の到達点を吟味し、郷鎮企業の先進地域であった蘇南地方の郷鎮企業の歴史的な変遷を系統的に整理し、現段階に於けるその特徴を明らかにすることの重要性を指摘している。

第一章「中国の郷鎮企業——歴史的概観と発展パターンの特徴について——」では、中国における郷鎮企業の発展を概観し、続いてその発展過程に存在した典型的な三つのモデル、すなわち温州モデル、珠江モデル、蘇南モデルの特徴を整理し、さらにこの三つの発展モデルの中にある共通性を指摘している。第二章「初期段階の蘇南モデル」では、これまでの先行研究と収集した資料を整理して、蘇南モデルの形成要因を分析している。そして90年代初期までの蘇南モデルの特徴を明らかにしている。第三章「蘇南の郷鎮企業の民営化——無錫県と遠東グループを事例に——」では、蘇南モデルの郷鎮企業における体制改革、とりわけ1990年代以降の民営化の背景、展開過程、およびその結果について、統計データを活用しつつ、制度と政策の実態を考察している。第四章「温州モデル」では、中国の郷鎮企業のもう一つの典型とされる温州モデルについて、蘇南モデルと対照しながら、その特徴をまとめている。そして「超越温州模式」活動と呼ばれる温州の民間企業の改革が蘇南で行われた民営化と同様の性格を持つものであったことを明らかにしている。第五章「蘇南郷鎮企業の

変容と蘇南モデルの再検討」では、民営化後の蘇南モデルに現れた新たな変化と発展を明らかにしている。その分析に基づいて蘇南経済は民営化された郷鎮企業を主体とする新たな発展の時代を迎えており、それはすでにかつての蘇南モデルとは異質な内容を持っており、両者を区別するためには新蘇南モデルという新たな呼称を用いることが必要であるとする問題提起を行っている。そして終章では第1—5章までの内容を総括し、結論と残された問題を指摘している。

薛明潔論文は、1980年代に全国でももっとも顕著な発展を見せていました蘇南地域の郷鎮企業がどのような特徴を持っていたのか、1990年代に入って蘇南地域の郷鎮企業が行き詰まり、他地域に後れをとった理由は何であったのか、1990年代後半になってからの蘇南地域における郷鎮企業の改革とその後の復興はどのようなものであったのかといった問題について、その実態と先行研究の評価の変遷を系統的に整理している。そして各地の郷鎮企業が一方で地域間で所有制度や経営方法の面で共通性を強めながら、同時に他方では生産物などの面で地域としての独自性を強めているという両面性を指摘している。その上で薛氏は、現在の蘇南地域の郷鎮企業が所有制等に典型的に見られたかつての蘇南モデルの特色をすでに喪失しており、蘇南モデルといわれるものの定義自体を見直す必要があると主張している。

### 学位論文審査結果の要旨

学位審査会は、2006年2月16日、学内委員5名によって行われた。審査の結果は、以下の通りである。

薛明潔論文が取り上げた蘇南地域の郷鎮企業は、改革開放路線を取り始めて以後の中国における農村工業化の進展をもっともよく代表する成功例である。蘇南の郷鎮企業は市場経済化が進む過程で顕著な発展を遂げ、しかも挫折と改革と再興を繰り返してきた。このため社会主义市場経済下における農村工業化のあり方を検討する上で、この地域の郷鎮企業の発展過程はもっとも重要な検討対象の一つとなっている。

問題の重要性を反映して、この分野にはすでに多くの先行研究がある。しかし、薛明潔氏は脚光を浴びているこの重要テーマに果敢に取り組み、膨大な先行研究の成果を手際よくかつ体系的に整理し、また自ら新たな資料を発掘して分析を行った。1980年代から21世紀初頭にかけての蘇南地域における郷鎮企業の長期的な推移を体系的に整理した研究はこれまで出ておらず、薛明潔氏の研究成果は貴重である。また分析視角という点では、蘇南地域の郷鎮企業を温州地域の郷鎮企業と対比させ、それぞれの地域における地理的条件や歴史的伝統を活かして独自の発展を遂げてきた郷鎮企業が、両地域における所有制改革の結果として共通の性格を強めてきたこと、他方で、市場経済の下での激しい競争によって経営や商品の開発といった点で独自性を求められていること、すなわち共通性と独自性をめぐってある種の二面的な進行が見られることを重視した。郷鎮企業の発展が、地域に根ざした独自性だけでなく、上記の多様な特徴を求められるようになったという歴史的な変化を、蘇南における郷鎮企業を題材にして具体的に明らかにしたこと、それが薛明潔論文のもっとも評価できる点である。

審査の過程では、特に、蘇南における郷鎮企業の変遷過程が、西部開発に代表されるこれから農村工業化にどのような教訓を与えるかという結論部分での問題提起について、当該地域の歴史や風土といった特殊性を考慮した上でより厳密に問題を提起することの必要性が指摘された。しかし、予備論文の審査会で指摘された弱点、郷鎮企業における民営化すなわち所有制の変化の実態に関する説明の不足、あるいはモデルという用語の定義に関する表現の曖昧さ、分かりやすい文章での記述といった諸問題については基本的に克服されており、その努力が多とされた。

薛明潔氏の学位請求論文は、取り上げた問題の重要性、資料発掘の努力、自らの実証成果をふまえた先行研究についての系統的な整理、論旨の明快さといった点で優れた内容をもっている。

審査委員会は、以上の理由から全員一致で、本論文を学位論文として認定することにした。